

ウエイト東海

電源不要で柵が開閉

物流倉庫用の収納柵開発

足場工事や足場材販売などを手掛けるウエイト東海（本社半田市岩滑、片山和洋社長、電話0569・32・2530）は、可動式の柵がついた収納柵を開発した。てこの原理を活用し、電源不要で柵が開閉する。主に物流倉庫での災害時の積荷の落下防止などの需要を見込んでいる。

（半田・野村有希）

災害時の積荷落下防止



片山和洋社長

は280キログラム。輸送用のパレットがぴったり入る大きさだ。価格は1台50万円前後。

正面には柵を設置した。

開発した柵「S・G・B Safety Gate Box」はスチール製で、縦約1・5メートル、横約1・5メートル、高さ約2・0メートル。重量

で閉まる仕組みになっている。積荷を持ち上げると柵が上がり、積荷を出し入れできる。

物流倉庫や工場では、柵に大量の物品が収納されている。ただ、正面に柵がついていないものが多く、地震発生時には衝撃で物品が

飛び出し、散乱してしまう。

今回開発した柵は、てこの原理で柵を開閉させるため、電源は必要ない。災害時など電気が供給されない時も利用できる。

開発のきっかけは、20

16年4月に発生した熊本地震だ。取引先の「倉庫の収納柵に柵があれば良いのに」という言葉をヒントに、片山社長自ら図面を描き製作した。

同社は、足場工事や機械器具設置工事、足場材販売とリースなどを手掛けている。柵の製造は初めてで、「柵が積荷の重さで開閉す

るように設計するのが難しかった」（片山社長）という。約1年間の開発期間を経て、ことし8月に完成した。製品はすでに半田市日東町のアイシン精機半田工場に2台導入され、好評だという。

今後も改良を重ねながら、本格販売する。製造販売に加え、同製品の製造方法などのライセンス販売も想定している。

片山社長は「災害時の物流倉庫での積荷の転落や落下事故は非常に危険。この商品をきっかけに、倉庫の防災意識を高めてほしい」と話している。



開発した「S・G・B Safety Gate Box」